

## 5 学生の受け入れ

### 進捗状況報告

【5.0.1 入学者受け入れ方針(門戸開放)】  
2008年度から、前期課程にコース制を導入した(キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース)。キリスト教思想・文化コースの受験者数は2名、合格者1名、入学者1名(いずれも、学部からの進学)であった。  
主として社会人学生や他領域からの進学者を念頭に、神学の基礎を学ぶ「基礎科目群」(学部科目と合併)を開設した。これにより、標準的に2年で修了することができるようになった。

【5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法】  
「外国語専門書講読」を開設し、その単位取得をもって、修士論文提出に必要な外国語学力認定を行うこととした。

【5.0.3 入学者選抜の仕組み(学内推薦制度)】  
神学部卒業生のうち、一定の要件を満たす者については、入学試験のうち学科試験を免除する制度を、2008年度入試(2007年度実施)より導入した。この制度によって、2名の学生が受験、合格し、入学した。

【5.0.4 入学者選抜方法の検証】  
2007年度より合格基準を改定し、2008年度より実質的な学内推薦制度を導入したので、研究科委員会において、今年度、選抜方法の妥当性を検証することとしている。

【5.0.6 「飛び入学」】  
学部課程から神学研究科前期課程への飛び入学制度の可能性を検討したが、現段階では、実現までに多くの課題があるとの結論に至っている。

【5.0.8 社会人学生の受け入れ】  
主として社会人学生や他領域からの進学者を念頭に、神学の基礎を学ぶ「基礎科目群」(学部科目と合併)を開設した。これにより、標準的に2年で修了することができるようになった。  
また、2007年度は科目等履修生が履修期間終了後に大学院へ進学し、単位認定を受けるケースがあった(1名)。科目等履修や聴講を通じて、社会人が神学研究科へ進学しやすくなるよう、今後の方向性を検討する。  
大学院課の特別予算に申請し、社会人志願者の募集広報のための予算を得たので、2008年度に広報を行う予定である。

【5.0.9 科目等履修生、聴講生等】  
生涯学習への関心の高さから、神学研究科においても多くの聴講生が授業を履修し、科目等履修生も少なからず存在している。とくに科目等履修生においては、体系的な学修を促し、また大学院進学を促すために、ディプロマ・コースを定めて計画的な履修を可能にするよう、検討している。

【5.0.10 外国人留学生の受け入れ】  
従来の前期課程に加え、後期課程においても2008年度入試(2007年度実施)より外国人留学生入試を新たに設置した。受験生1名、合格者1名、入学者1名であった。大学の制度である受託研究員を外国の大学・研究機関から受け入れることで、大学院への進学へとつながったケースもある。このような施策をより推進していくことで、外国人留学生の受け入れ拡大を目指す。  
また、韓国監理教神学大学をはじめとする協定校との学術交流を基に、留学生受入の拡大の方途を探る。

【5.0.11 定員管理】  
前期課程においては、基礎科目群を設置して、社会人学生が2年で修了することを可能にするカリキュラムを実施した。  
また、後期課程においては、教員組織の充実を図り、研究指導體制の整備を進めることで所定の年限で課程博士を取得できるような仕組みを整え、「学位取得までのプロセス」として公開した。

### 学内第三者評価

キリスト教思想・文化コース出身の進学者への対応、社会人学生の3年在学問題を2年に標準化する措置など改善された点が多々あることは評価できる。今後、大学院進学者数を増加させるために、より一層の改善が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
コース制の導入や入試改革などが積極的に進められており、その成果については今後、検証を進めていくことが期待される。